

■ 令和4年度 高校合同文化祭プレイベント企画の事業評価について

○リーディングプロジェクトの評価について

推進会議において、ロジックモデルによる評価やアンケートの調査結果等に基づきその成果を検証し、一次評価結果を審議会に報告。審議会では、この結果を受けて、改善すべき部分等の次年度に向けた提言を行う。

(八尾市芸術文化推進基本計画 P31 より)

○アンケート調査結果に基づく成果の検証

➤ アンケートの総件数、鑑賞者数について

調査結果	・アンケート総件数は 57 件。「まちのコイン」によるスタンプラリーにアンケート提出を含めて実施。 ・全体の鑑賞者数は把握していないが、文化会館スタッフによると、多くの方が鑑賞していた。
分析	・次回はアプリをお持ちでない方からもアンケートを提出してもらえるよう工夫が必要。 ・アンケートを提出以外に、鑑賞者数の把握が必要。
今後について	・アンケートを提出してもらいやすいように工夫する。 ・鑑賞者数の把握のため、台帳を用意して氏名等をご記入いただく。

➤ 広報の手法について

調査結果	・アンケート調査結果では、チラシ配布、ポスター掲示よりも、イベントの参加者や関係者等からの口コミや市 HP や SNS 等で知った人の方が多い。
分析	・チラシについては、市内各施設や市内公立中学校の生徒全員に配付する等、約 9,000 部配布したが、効果は薄かった。
今後について	・令和 5 年度に構築予定のポータルサイトでも発信するなど、新たな広報も実施していくので、どうやってイベントを知ったか等、割合の変化を分析し、効果的な広報手段を検討する。

➤ 各高校の PR について

調査結果	・会場で学校案内のパンフレット・動画などで各校の紹介を行い、「学校のことを知れて良かった」が 89.7%と高い数字となっている。
分析	・市内高校の周知につながったと思われるが、ターゲット層である中学生やその保護者により興味を持ってもらうための方法を検討する必要がある。
今後について	・次回開催は 11 月を予定しているため、学校説明会の案内を一緒に配付する、各高校の先生による出張説明会の開催など、より効果的な手段について学校と検討する。

➤ 展示作品数について

調査結果	・「ちょうど良い」が 73.7%と大多数を占めるが、その他意見として、「多い」3.5%よりも「少ない」17.5%だった。
分析	・概ね満足しているが、よりたくさんの作品が見れる方がいいという人も一定数いる。
今後について	・サテライト会場として文化会館以外の開催場所も検討しており、展示作品等は増える見込みになるので、次回アンケート結果の推移を見守る。

〇ロジックモデルによる成果の検証（資料 2 参照）

（アルパック HP より）

- ・ロジックモデルとは、事業全体を、関わる人（ステークホルダー）、活動（インプット）、活動結果（アウトプット）、社会的な変化・影響（アウトカム）等を用いて整理し、論理的な構造として示した、事業の設計図のようなもの。
- ・芸術文化のように価値が多様で曖昧さがあるものこそ、論理的にその事業の価値を定義することで、様々な主体と目的を共有し意思疎通を図っていくことが大事であるとされている。

（資料の説明）

- ・高校の合同文化祭のロジックモデル（案）を、関わる人（ステークホルダー）ごとに整理して作成。
 - ・「イベント実施の手段（R4 年度）」として、「活動（インプット）」と「活動結果（アウトプット）」。
 - ・今回のイベントの実施にあたって、どんな活動をして、その結果として得られた結果。
 - ・「めざすイベントの目的」として、「短期（意識）」、「中期（行動）」、「長期（状態）」。
 - ・「短期（意識）」は、イベントを実施した後に感じる意識、「中期（行動）」として行動に変えて、「長期（状態）」は、最終的になっていて欲しい状態。
 - ・①～⑦は、上の関わる人（ステークホルダー）ほど、優先度が高い。
 - ・「関わる人（ステークホルダー）」の 7 項目全てが、『「アート×〇〇（ほかの分野）」の相乗効果の成功事例』に紐づくものとしている。これは、リーディングプロジェクトである「高校の合同文化祭」を 1 つのコラボ事業のモデルケースと位置づけ、これを見本とし、教育以外の分野でも「アート×〇〇」が様々な場所で展開されることを期待する。
 - ・最終的には、一番達成したい社会的インパクトとして、八尾市芸術文化基本条例と基本計画でめざす「芸術文化活動の有機的なネットワーク（やおうえるかむコモンズ）の形成」につながっていくイメージとしている。
- ※ロジックモデルは本来、事業実施前に作るべきものだが、今年度はスケジュールの都合上、事前作成が難しく、事後に作成した。

➤ 令和 4 年度の手段はめざすイベントの目的につながっていたか。

【短期（意識）について】

- 網掛けの部分①④については、令和 4 年度の実施手段がイベントの目的につながっていなかった。

⇒ 次回実施時は、特に優先して①④の手段が、イベントの目的につながるように検討することが必要。

	短期（意識）	令和 4 年度の実施状況	次回イベントに向けての対応
① 参加した高校生	自分達が考えたことがイベントになり、達成感が味わえた。	・準備期間が実質 3 カ月と短く、会場や催事内容に選択肢がなかった。	・来年度に向けて早めに学校との調整を進める（2 月より開始済）。 ・高校生と打合せの機会を十分に設け、生徒のやりたいことをくみ取れるようにする。R4 年度、2 回であったが、R5 年度は 5 回の予定。
④ 開催場所 （R 4 は文化会館のみ）	施設の本来用途以外のお客さんが増え、施設に活気が出た。	・「まちのコイン」アプリを導入して、スタンプラリーを実施し、アプリの利用者が来場されるケースがあったが、少数であった。 ・プリズムホールで実施したので、施設の本来用途でのお客さんが中心に来場された。	・開催場所は、サテライト会場として使用できそうな他分野施設等に声掛けをする。

➤ 社会的インパクト（一番達成したいこと）から見て

「芸術文化の有機的なネットワーク（やおうえるかむコモンズ）の形成」につながったか？

今回の実施結果	・プリズムホールの共用スペースや回廊ギャラリー等で小規模ではあるが、高校合同文化祭のプレイベントとして実施でき、本格開催に向けて最初の一步を踏み出すことができた。 ・市内4校（私立1校、公立3校）が参加し、生徒同士の交流も行い、各校の特色や取り組みを知る機会となった。 ・「やおうえるかむコモンズ」の取り組みについて、協賛企業に知ってもらい、展示の様子をFacebookで投稿していただくなどにより、多くの方にイベントを知っていただくことができた。 ・推進会議委員に協力いただいたが、設置後まもないイベントのため、人数的には少なかった。
次年度に向けて	・プリズムホール以外に市内の他分野施設等をサテライト会場として使用することも検討する。 ・今回参加できなかった八尾高校や八尾支援学校（種別：知的障がい）にも参加してもらう。 ・高校合同文化祭の取り組みを知ってもらい、協賛企業を増やすための工夫を検討する。 ・今回不参加だった推進会議メンバーにもイベントに興味を持ってもらい、参加することでアートと他分野の掛け合わせが、自分達の活動にプラスとなる面を感じてもらうことで、メンバー自らのイベント企画においてアートとの連携を深めていってもらう。

○次年度以降のイベントに向けて

- ・市の予算措置はなく（R4・5）、収入は企業からの協賛金で賄っている。
- ・令和5年度の予算規模は約30万円程度を想定しており、協賛企業を募る予定としている。
令和6年度以降の本格開催に向けては、市での予算確保やクラウドファンディングなども検討する必要がある。
- ・次回以降、サテライト会場の企画サポート等、現在の人員体制（参照：資料1-1 4 運営体制について）では対応できない可能性もあり、趣旨に賛同してイベントに協力してくれる人を増やすことが望ましい。